

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 : 997-2189 メール: airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



クダコ灯台から見る
上怒和の丸子鼻岬



忽那諸島屈指の潮流が行き交う水道を渡り、クダコ島へと上陸。歴史研究家の長井・山内両先生を伴った強力な布陣でクダコ城の謎に迫る。

クダコ衆の 働きに迫る!! クダコ島現地踏査

中島と怒和島の中間に浮かぶクダコ島。その周辺の海底は九〇mから一五〇mの深さがあります。また漁場としてのクダコ海域は「釣り人の聖地」と言われるほどの好漁場で、全国の太公望の憧れの的となっています。

しかし、忽那水軍が中島に本拠を置き、海上交通の覇権をにぎっていた中世の時代、この水道の持つ意味は違っていました。無論、漁場としての豊かさは変わりませんが、忽那水軍にとってはそれ以上に、海上交易上の関所としてのクダコ城が掛け替えのない場所でした。潮流の激しいクダコ水道を安全に航行するためには、海運を生業とする荷主にとっても、忽那水軍配下で屈指と言われたクダコ衆の潮見の業と操舵技術が不可欠であり、それらの代償として支払われた通航料は、忽那水軍の大きな収入源となつたことでしょう。ここ数年、忽那水軍の足取りをたどり、往時の忽那諸島の歴史・民俗を解き明かし、新たな観光資源としたい松山離島振興協会では、先の怒和島 上怒和地区にそびえる丸子鼻に引き続き、さらに重要な意味を持つと思われるクダコ島の砦跡を探索すべく、現地踏査に乗り出しました。かつて怒和島を本格調査された歴史研究家の長井数秋先生、過去に実際にクダコ島上陸を経験されている松山大学の山内譲先生を伴い、いざ無人島へ上陸です。着岸設備のない島への上陸は、たとえしまびとであっても慎重を期します。クダコ島には灯台があるため海上保安庁の管理がなされ、つい先日管理道の草刈りが行われたばかりでしたが、到着した灯台周辺は丈2m以上の藪に覆われ、辺りは皆目見えません。かろうじて藪の切れ目から丸子鼻が目視できる箇所がありました。これらを切り拓き視界を確保するには、興居島の小富士山以上の労力を要しそうです。面々は無念の思いで下山し、次の機会を設ける算段をするもそれだけでは帰れません。その後一行は中島へ渡り黒岩城跡をつぶさに調査。溜飲を下げるのでした。

今回は結局本格調査に至りませんでした。両先生はクダコ城跡にただならぬ雰囲気を感じ取られたようで、この雪辱を果たす日もきっとそう遠い将来ではないでしょう。またみなさんに、おもしろい報告ができる日を楽しみに。

丸の内朝大学 ニッポン再発見クラス「忽那諸島へ島留学」

しまの元気を分かち、丸の内知恵を授かる



丸の内朝大学「ニッポン再発見」クラスで忽那諸島の魅力を語る田中会長。働き者の島をアピールすると同時に、苦手が物売りであることを伝え、みなさんからの提案を要請。

本情報紙二〇二二年夏号でお知らせしましたとおり、松山離島振興協会は丸の内朝大学とご縁ができています。昨年夏、瀬戸内海の島々を訪問された丸の内朝大学の「ニッポン再発見」クラスのみなさんと、縁あって交流した私たちは、クラスの講師である古田秘馬さんとその後の交流を重ねる中で、今年度は正式に忽那諸島をメイン・ターゲットに据えたクラスを開講してくれることとなりました。生徒の募集を開始したところ、瞬く間に定員に達したため締切り。秘馬さん人気と相まって、本当に大人気のクラスの様です。その後、秘馬さんからの要請を受け、七月二十五日と八月一日の両日には、会長以下四名が講師として事前学習をサポートすべく東京へと赴きました。第一陣は田中会長と里島ツーリズム協議会事務局の藤澤くんの二人が、続いて俊成事務局長と坂の上の雲まちづくりチームの石本くんが相次いで講話し、忽那諸島の暮らしや文化、産業の実情などをお伝えしました。

こうした座学の講座を経て、クラスの面々が実際に忽那諸島でフィールドワークを行うのは八月三十一日と九月一日の二泊三日の行程のはずでしたが、その数日前に発生した台風十五号が西日本に接近との報に、にわかには不安が募ります。結果、台風は九州の手前で温帯低気圧に変わり、雨はもたらしたものの、船便に影響などありませんでしたが、大事をとって日程調整を行う事務局。変更後の日程を十月十九日、二十日としました。

ただ、今回のフィールドワーク日程は二日間と極々短いことから、参加者の中には前後に休暇を組み合わせ長期滞在を計画していた人も多く、延期の連絡前に旅立った人もいましたので、協会では田中会長以下事務局、市当局、そして朝大学の秘馬さんらとともに彼らと接触し、事前見学の形で島の下見をしていただくこととしました。一方、延期決定も打ち合わせのために松山入りを決定してくれていた秘馬さんたちは、天候の影響とは言え、受け入れ側に生じたりスクを案じ、関係者へのお詫び行脚に立。みなさんと直接面談する中で、併せ、延期後のお願もできたようでした。こうして、島と気象条件との密接な関係をひとつの学びとして、中止行程の日も、朝大学と協会との交流は行われたのです。

今回、朝大学が忽那諸島に求めたテーマは、なんと「仕事」。島で働くことを通じ、しまびとの生活を捉え、島の活性化をイメージしてもらおうとの秘馬さんのねらいです。田中会長の口癖「日本一働き者の島」のフレーズからひらめいたテーマだとか。クリエイターやプロデューサー、コーディネーターが顔を揃える参加者のさまざまな提案に、否が応でも期待が高まります。彼らには、島の良さを十



前泊の会長を気遣って朝大学のみなさんが前夜祭を企画してくれました。至極ご満悦の会長ですが、何人が前乗り入れするとのお話を聴き、手応えを感じてのこと。決して、女性に囲まれデレデレしているだけではありませんので、念のため。

分に体感してもらい、英気を養ってもらおう中で、地方活性化のモデルとなりうる提案をこのフィールドワークから生み出してほしいと願っています。また、そもそもがまちづくりの仕掛け人である秘馬さんは、実家の敷地内に建てたという「六本木農園」なるレストランも経営していて、忽那諸島の物産販売も受け入れていただけることとなっており、島にとつての明るい材料となっています。こうしたことをきっかけに、しまびと自らが気付き、考え、行動することが、何にも増して必要だと思います。東京と松山の連携から始まる、丸の内や六本木と、忽那諸島との呼応。秘馬さんお得意の「関係値」を今後いかに高められるかが、勝負の力ぎをにぎるようです。平成二十六年三月二十一日の瀬戸内大島博覧会「瀬戸内しまのわ二〇一四」の開催まで、あと半年を切りました。松山離島振興協会は、しまびとのみなさんのやる気を受け止め、その一つひとつをしっかりとつなぎながら、元気な島の実現に努めてまいります。

興居島の船踊りを いざ見物! — 忽那ロマン探訪クルージング —

昨年度から松山市教育委員会文化財課の助成を受け実施している忽那諸島のクルーズ事業。今回は興居島の秋祭りの奉納行事である「船踊り」に日程を合わせ開催することとしました。

興居島の伝統行事として船越和氣比賣神社に奉納される「船踊り」は、由良地区「小富士文化保存会」と、泊地区「興居島船踊保存会」の両団体が隔年で担当。今年は「興居島船踊保存会」の番。演目はお得意の『紅葉狩』。

『紅葉狩』とは「ある日、従者を引き連れ戸隠山へ紅葉狩に出かけた平維茂（たいらのこれもち）は、山中で更科姫（さらしなひめ）の一行と出会います。酒を勧められ、姫たちの美しい舞を見るうちに寝入ってしまう維茂。しかし、あわやのところ、姫が鬼女だと気付いた維茂が、名刀小烏丸で鬼女を退治するというお話。豹変する姫の演じ分けがこの演目の見どころです。「興居島船踊保存会」の山内武人会長の孫娘 萌ちゃんの更科姫、息子 望さんの鬼女をぜひご覧下さい。必見です!



平成21年秋、薪の篝火の下、和氣比賣神社の拝殿で、興居島船踊保存会により演じられた『紅葉狩』の一場面。実に艶やか。

さて、毎回、忽那水軍の活躍をみなさんにお伝えするべく開催してきた忽那ロマン探訪の旅。今回も忽那水軍の覇権の広さを体感し、海上交通の中で水軍の働きを知っていたため、広島県の倉橋島まで足を延ばすこととしています。

来年は瀬戸内大島博覧会『瀬戸内しまのわ二〇一四』の年。再び瀬戸内海にスポットが当たり、全国から、あるいは世界中から多くの観光客が訪れることでしょう。そのとき、島に住まう私たちが島の魅力をつかりとお伝えすることができたら、博覧会終了後も、一人また一人と島を訪れる人が現れ、島の魅力は大いにアップ

することと思います。

そしてこのクルージングに付き物なのが釣島灯台と灯台官舎跡の見学。国際航路である釣島水道で、日没から夜明けまで海の安全を司る釣島灯台の雄姿を多くのおみなさんに紹介していきたいと思えます。

ところで、このクルージングを共催いただいている石崎汽船さんには、ホームページや新聞広告での周知に加え、受付事務もお願ひしています。

そんな今回の忽那ロマン探訪クルージング。募集人員は百二十名で、参加費は高校生以上が二五〇〇円、小中学生一五〇〇円、未就学児は無料となっております。また、お弁当は別途一〇〇〇円で予約販売しており、今回は陸月島の「海遊亭」特製のしめめし弁当です。受付は電話で、〇八九一九五一一〇二二八、石崎汽船の水野さんまで。

島には住んでいても、なかなか他所の島に行く機会は無いもの。ぜひこの機会にさまざまなお島をめぐる、新たな視野を得ていただきたいと思います。そして『瀬戸内しまのわ二〇一四』のときには、ご来島のおみなさんに忽那諸島の魅力を余すこと無くお伝えしたいですね。ぜひ、ご参加くださいませ。

第8回 定期総会を開催しました / 平成25年5月19日

去る平成25年5月19日(日)、松山市三番町の松山センタービルにおいて、松山離島振興協会の第8回 定期総会を開催しました。

総会では、平成24年度の事業報告と決算報告に加え、25年度の事業計画と予算を承認いただいた後、市当局からの瀬戸内大島博覧会『瀬戸内しまのわ2014』についての報告があり、協会としての新たな取り組みについても協議しました。

また今年度は役員改選年ではありませんが、「監事辞任に伴う新たな監事の指名」が追加議題とされ、新監事には興居島 泊地区の小池嘉彦さんが選任されました。残り1年の任期ではありますが、金本房夫監事とともに、協会の会計監査等お願いすることとなります。前監事の赤崎 務さんには長きに亘りたいへんお世話になりました。心から感謝申し上げます。

さて、奇数回である第9回 定期総会には、4度目となる役員改選があります。松山離島振興協会も結成から8年目となり、やや高齢化が危惧され始めましたので、協会の若返りのためにも、各島で若手会員の増大を図り、組織の強化を進めなければなりません。理事のみなさんにおかれましては、若手会員の発掘にご尽力を賜りますようお願いいたします。また、住民のみなさんには、ぜひ協会の活動に関心をお持ちいただき、一緒に汗をかいていただけますようお願いいたします。協会では引き続き島の活性化のために奔走し、元気な島を取り戻せるよう努めてまいります。

【地域産業部】

うに漁が解禁される7月は「待ってました」の季節。橙色と山吹色が入り混じった独特の色味が食欲をそそります。一個体からわずかしが取れないには、ひと瓶作るのにどれだけの労力があると思いますか。それを考えると、島の者でもとても豪快には食べられません。炊きたてのご飯に良し、酒の肴に良しと、子どもから大人までを虜にする瓶うには、島の味の代表格。しかも当年モノより、去年、一昨年モノが濃厚で美味しいんです。

みなさんも、ぜひお試しあれ。

《お問い合わせ・お申し込み》

副部長 石本憲三

961-2033



【観光振興部】

今回の忽那ロマン探訪クルージングでは、睦月島の「海遊亭」特製弁当を召し上がっていただきます。日頃から中尾憲次親方が、腕によりをかけたしまめしは絶品と評判。その味を弁当箱に詰め込んで、みなさんにお届けしますので、乞うご期待です。

クルージングのある10月は、島も秋が色濃くなる頃。三輪田米山の注連石、夫婦楠、長屋門など眺めながら、初秋の睦月島を散策してください。

みなさんのお越しをお待ちしています。

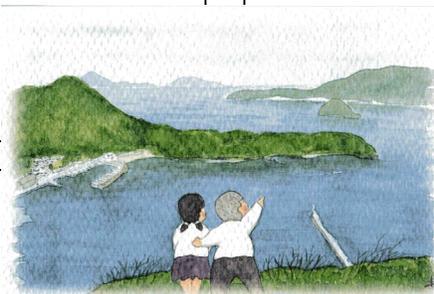
《お問い合わせ・お申し込み》

部長 田中 治

998-0243



【しまづくり部】



台風15号が発生し、丸の内朝大学の来島は見送られましたが、古田秘馬さんや前乗りの面々は松山入りし、仕切り直しの会を開催。市役所一のピアノ達人 石本 誠くんと、鷹の爪を隠す才人 秘馬さんによる即興のピアノ連弾には正直驚かされました。

その翌日から、長期休暇をとったという岡野麻里さんという女性をわが家で預かることになり、4泊した彼女でしたが、雨にたたられ、やっと見た晴れ間は最終日。待った甲斐あってか、抜けるような青空と多島美の絶景に彼女も感動した様子でした。

さて、その彼女、島で体験したすべてをスマホで送信し、クラスみんなで共有してくれたように、10月の仕切り直しを心待ちにしてくれている彼らに、私の気持ちも高まりました。

《お問い合わせ・お申し込み》

会長 田中政利

999-0524

しまの活性化について みなさんのご意見求む！

<http://island-matsuyama.com/>

松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています

あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか

